

東日本大震災からまもなく1年

南光台・泉区・仙台市・宮城県・東北 そして日本と世界の、絆は永遠に！！

南光台復興新聞

一発行所一

仙台市立
南光台中学校
広報委員会

仙台市泉区南光台
七丁目24番1号
TEL 022(388)1261
FAX 022(388)1262

南中・この一年

写真で振り返る震災元年

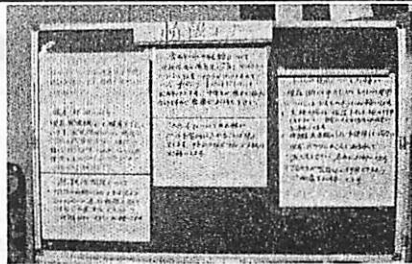
平成二十三年三月十一日二時四十六分、あの時どこで何をしていたか覚えていない人は、東日本にはほとんどいないでしょう。あれから、まもなく一年がたとうとしています。

南光台中学校は、県内の多くの中学校と同じく、翌日の卒業式の準備を進めており、まもなく会場ができあがるという時に、あの揺れがきました。当時の一・二年生の多くは体育館あるいは南校舎の三年生の教室の飾りつけをしていました。激しい揺れがおさまると、校庭に避難したところに非情にも雪が降ってきたのを記憶している人も少なくないでしょう。寒さに震えていたまさにその時、沿岸部は津波の被害にあっていたわけ



たますが、我々がそれを知るのももう少しあとになります。避難所となった体育館はあつという間に満員状態となり電気が止まっていた中、発電機で照明をつけての『生活』が始まりました。

その後、全国各地から続々と支援物資が届きました。学校に備蓄してある非常用食料は、概ね三日分で、これもまたあつという間に底をついたので、次々と到着する支援物資は大変ありがたいものでした。仙台駅近辺の小・中学校では『帰宅難民』と呼ばれる人々が大量集まったため、備蓄食料が一日でなくなつたというところもあつたと聞いています。



高まる防災意識

十月まで、小学生との共同生活をおくりましたが、先輩として自覚が高まった様子とはりわけ避難訓練やレスキュー体験で現れました。特にレスキュー体験は、例年夏休み前の三年生のものと、二月の二年生の救命救急(AED)のものがありますが、震災元年の今年は、例年にならぬ集中力をもって取り組んでいるようでした。実際、震災直後の仮設トイレの組み立ては、当時の三年生が、あれよあれよという間に組み立ててくれたもので、もちろん、教員チームもチャレンジしたのですが生徒たちのほうが、はるかに

Q どのようないきさつで、仙台に来られることになったのですか？
A 1993年7月の北海道南西沖地震で、自分も奥尻島の親戚も被災経験しています。今回の震災の現状を知り、自分に何か協力できることはないかと、支援活動に参加しました。
Q 東日本大震災の当日、北海道(札幌)は揺れましたか？
A 札幌・小樽あたりは震度4強でしたが、上からものが落ちてくるようなことはありませんでした。
Q 南光台中学校の印象を、簡単にお聞かせください。
A 職員室の会話も多く、和気藹々とした、とてもいい学校だと思います
Q 沿岸部に行かれていると伺っておりますが、沿岸部ではどのような活動をなさっているのですか？
A 休みの日に女川や互理などのボランティア・センターを訪ねて、ごみ拾いやがれき処理などを手伝っています。
Q いつまで仙台市にいらっしゃいますか？
A 3月31日までです。

北海道からの「支援部隊」 山口全樹先生に聞きました。

山口先生作
雪像「ブーさん」



北海道札幌市といえは、2月初旬の雪祭りでは有名です。市民対象の雪像コンテストがあるのだそうですが、山口先生は、なんと、そのコンテストで優勝経験をお持ちだそうです。右は山口先生(右端)と1学年の先生方とブーさんです

はやかっただすね。そのためか、二月なかばに教員チームの講習会が行われたときの真剣さも、例年にならぬものでした。とはいえ、練習の成果を発揮する機会は、できれば訪れて欲しいものですね。
津波におそれられた沿岸部とは比べものにならないとはいえ、被災地・仙台の学校であるというところで、震災時はもちろん、その後も、全国のみならず、世界中のみならず、さまたま支援の手をさしのべていただきました。
大林素子さんの「パレール教室」で現役の越川優選手の見学をいただきました。北校舎と南校舎の通路の復旧が待ちのぞまれる今日このごろですが、無事に学習を続けることができたと、感謝の気持ちと諦めない決意を忘れずにいきたいと思います。



復興へ！南中の力、結集！

プールからの水くみや 避難所のストーブへの給油

水で炊いたアルファ米のパック詰めや配給作業など...



22年度卒業生は、武道館(避難所)で『 仰げば尊し 』を披露しました。

